



厚生労働省 高木美智代 副大臣・厚生労働省 事務担当と、 いなべ地域の在宅医療を担う専門職との意見交換会



- 日時：平成30年2月10日(土) 13:15～14:25
- 場所：東員町役場
- 内容：「終末期医療、在宅・地域包括ケア」についての意見交換
- 参加者：17名

- (1) 厚生労働副大臣(衆議院議員) 高木美智代氏
- (2) 厚生労働省事務担当：4名
 - 大臣官房秘書官 西川昌登氏
 - 大臣官房総務課広報室 室長 吉田一生氏
 - 医政局地域医療計画課医師確保等地域医療対策室室長 松岡輝昌氏
 - 医政局地域医療計画課在宅医療推進室在宅看護専門官 山口道子氏
- (3) 東員町長 水谷俊郎氏
- (4) いなべ在宅医療多職種連携推進協議会会長(いなべ市副市長) 吉田桂治氏
- (5) いなべ地域の専門職：8名
 - いなべ医師会会長 桑原浩氏、いなべ医師会 横村伊津夫氏、
 - いなべ総合病院院長 石川雅一氏、日下病院理事長 日下政哉氏
 - どんぐり診療所院長 平山将司氏、とまと歯科院長 渡部信義氏
 - (社)モモ・(有)だいち 福本美津子氏、パンプキン薬局(薬剤師) 田中大喜氏
- (6) 行政2名：三重県長寿福祉課長 島田氏、三重県桑名保健所長 長坂氏



☆ 出された課題や要望

往診医の高齢化、認知症MC Iの早期発見、地域包括ケア病棟で介護レスパイトの希望を叶えられない、医療職のモチベーション、医師も含め介護職の人手不足、大阪市と同じ面積のいなべ市で急性期病院2か所の悩み、在宅での多職種連携の重要性(特に訪問看護と在宅医師との連携)、看護小規模多機能の活用、在宅医療における薬局の診療報酬、中・大規模薬局の地域貢献、かかりつけ薬局の地域活動要件の改善、在宅歯科の口腔ケア往診拡大や歯科助手の活用 など

☆ 高齢化が進むいなべ地域では…

「さらに在宅医療の需要が増える中で、手いっぱいになる恐れ！
地域の力や多職種連携で乗り切っていくしかない！！」

厚生労働省副大臣(衆議院議員) 高木美智代氏の総括

- ★ “在宅での看取り” “人生の最期をどこで迎えていくのか” “どういう終末期の医療を望むのか” という、国民1人ひとりの意思が尊重されるための体制整備が重要。
- ★ 「病院も人手不足で疲弊」「在宅医療も、訪問診療医が1人で切り盛りしながら倒れたら終わってしまう」と懸命にやる中で、多職種で工夫しながら力を合わせてやっている。
- ★ 在宅訪問の報酬について、都会のすぐ行けるところと、田舎の簡単に行けないところと全然違うことを改めて認識。距離感・規模感を、どのように盛り込んでいくか。今後の大きなテーマ。
- ★ ニーズはますます増える一方で、支える仕組みが重要。関係する者が疲弊しては何にもならない。“働き方改革”と言われる中、人手不足をどう乗り切るか。大きな課題と認識。
- ★ 今後の政策に、必ず活かすことを約束します。

